あいく

HITO-KUMA プロジェクト

目次

P02 ごあいさつ

P03 黄 檗 宗 新宮禅寺

P09 日本遺産 木本神宮

P15 人吉海軍航空隊基地跡

P21 兵法タイ捨流 上原エリ子さん

P23 茶房はち 佐藤圭さん

P25 球磨商業高校 調査研究班

P27 錦の「ご縁」を未来に紡ぐ

P28 編集後記

P29 観光モデルコース

P30 問い合わせ先

表紙：米田ヤチヨさん。大正 13 年生まれ。錦町在住。
使用カメラ：canon 4sb(1952 年製） canon 50mm f1.5（1952 年製）カラーネガフィルム
題字：はま田勝とし。錦町立西小学校 3 年生。

表題：ありく
【歩く】
① あちらこちらと移動する。
② あるく。徒歩で行く。
③ 訪ねる。出かける。
④ 月日を送る。動作を継続する。
【在り来・有り来】
変わらずにずっと存続してくる。

ごあいさつ

私がこの地にやってきて7年、いろいろな方々から
「ここには何もなか」という声を聞いてきました。

本当にそうでしょうか？

よそからきた私にとって、新鮮で素晴らしいことだらけ。
宝物がいっぱいの誇れる人吉球磨、我がふるさと錦町です。
ここに来たのも、何かの縁。

今を生きる私たちが、もっと地元のことに興味を持ち、
過去から受け継がれてきたものを伝えていくこと。

過去と未来を繋ぐ架け橋の一つになれたら・・・。
その想いがきっかけとなり、動き出したのがＨＩＴＯ-ＫＵＭＡプロジェクトです。

このプロジェクトを通して、目で見て、耳で聞いて感じる貴重な経験ができました。

もっともっと好きになった、我が錦町のことを沢山の皆様に知ってほしいと思います。

ＨＩＴＯ-ＫＵＭＡプロジェクト
代表　濵田佳与子

黄檗宗（おうばくしゅう）
新宮禅寺（しんぐうぜんじ）

第13代住職
圓光裕（つぶらこうゆう）さん

新宮禅寺は、日本遺産のひとつに認定された「相良三十三観音めぐり」の三十二番札所。境内の奥には、1577年（天正5年）から54年の歳月をかけて建立された美しい色彩の六体の観音様がまつられています。戦国時代から現代に至る時代の変遷のなかで、観音様は人々のどんな心の声を聴き、何を見つめてきたのでしょうか。（文・高崎美智子）

町の指定有形文化財にも指定されている六観音像。
左から如意輪観音、十一面観音、千手観音、馬頭観音、准胝観音、聖観音。

写真・魚住芳正 / 濵田喜幸

戦乱の世に建立された六観音

新宮禅寺は黄檗宗のなかで日本の最南端に位置するお寺です。このお寺ができた時期は不明ですが、球磨郡誌などの文献に最初に登場するのは１４０５年（応永12年）です。１５７６年（天正４年）、火災で本堂が焼失した際に、焼け跡から約３寸の阿弥陀如来像が見つかりました。現存する六観音は、相良家18代相良義陽（よしひ）がこの阿弥陀如来像の供養や相良家の子孫繁栄を願って建立したものです。

六観音（如意輪観音、十一面観音、千手観音、馬頭観音、准胝観音、聖観音）は、それぞれ異なる仏師によって彫られ、完成まで54年の歳月がかかったそうです。人吉球磨地方で六体の観音様があるのは新宮禅寺だけです。うちの如意輪観音は、胸元に赤ちゃんのお姿が描かれています。子安観音とも呼ばれる子授けの守り神です。

お寺は人の心によりそう場

現代において、お寺は普段の生活と無縁なところです。昔のお坊さんは見聞が広く、流行の最先端でした。お寺は地域の人々や情報が集まる交流の場でしたが、今はお葬式ぐらいしか関わることがなくなりました。肉親など大切な人の死を通してお寺や「死」は遠い存在や他人事ではなく、実は身近なものだったと気づきます。家族が亡くなった悼みを宗教が和らげてくれるのです。私たちも聞いて差し上げることしかできない時もありますが、お寺はそういう場でありたいと思っています。

私は大学時代に黄檗宗の本山で約５年半、修行をしました。その後は錦町に戻ってきて、特別養護老人ホームで介護職員の仕事をしていました。介護は世の中で必要不可欠な分野のひとつですが、単純に介護という言葉だけでは片づけられないものがあります。当時は自分の無力さを痛感した時期で、修行に通じる多くの気づきもありました。人を敬う気持ちが何よりも大切です。

先代の父が亡くなり、私は10年前に新宮禅寺の第13代住職となりました。私はお寺に生まれたことが実はずっとイヤでした。禅宗は一番優秀な弟子が継ぐのが本来のしきたりで、世襲制ではないんです。でも、年齢を重ねるなかでさまざまな悩みや苦しみから人を救えるのは、私たちしかできない仕事だとわかり始めてきました。この仕事は私の使命であり、勤めあげなければならないものだと考えています。

座禅会を復活、心を整える「非日常」のひととき

座禅は禅宗の基本です。座禅会は先代が亡くなってから途絶えていたのですが、最近復活しました。座禅は自分を見つめて、心を平穏にする癒しのひとときです。「非日常」というのがいいんですね。お寺に足を運んで、歴史ある土地や建物で自分を見つめる時間をつくる。今の時代には新鮮だと思います。日頃のストレスを和らげるためにも座禅のほかに写経、写仏、ヨガなどのプログラムを用意できればと考えています。

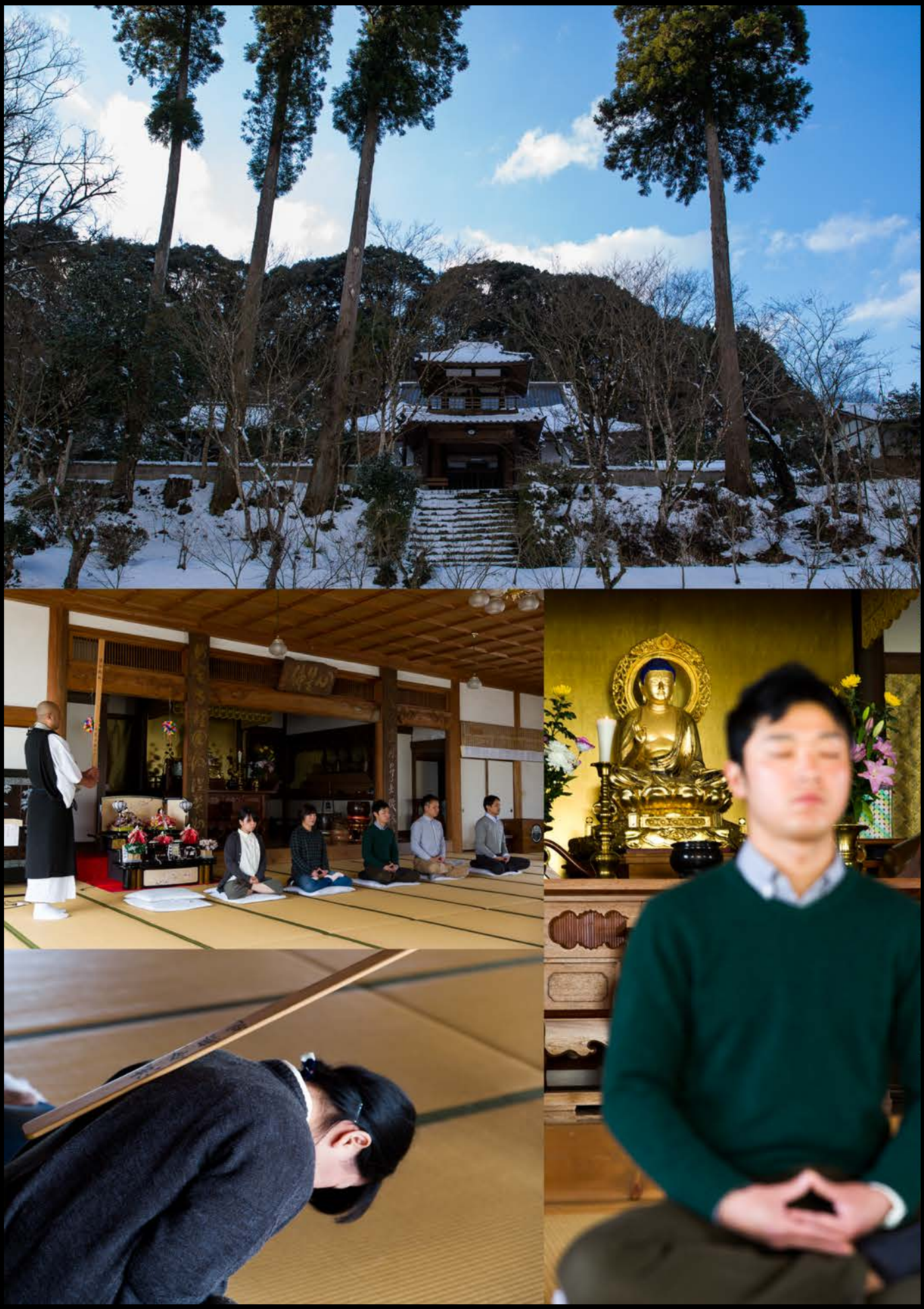
私は本堂から庭にある鐘楼を向いて座禅をすると、心が落ち着きます。早朝に座って自分と向き合う静かな時間がいいですね。実は父も同じ場所で座禅をしていました。私たちは十人十色ですから、ここに来て自分だけの落ち着ける場所を見つけて、そういう「時」を感じて頂けたらと思っています。新宮禅寺は紅葉の季節も美しいけれど、私は５月の新緑の頃がおすすめです。新緑には若々しい生命力を感じます。

外から俯瞰して気づいた地元のありがたみ

昨年10月に球磨商業高校の生徒さんたちが新宮禅寺を訪れました。学校からは１キロもない距離ですが、生徒さんにとってお寺は未知の場所だったと思います。彼女たちは楽しそうで、修学旅行のような印象でした。六観音を見ただけでは何もわからないけれど、それぞれが持つ意味を知る機会があれば理解が深まるのでしょうね。若い人たちがお寺や文化財にもっと興味を持つように、身近でわかりやすいものに変えていかなければと思います。

高校や大学の頃の私は、都会に憧れてとにかく外に出たい、田舎はイヤだと思っていました。でも、外に出て違う目線で見ると気づくことがあります。大学時代、修行をしていたお寺の高台から宇治の市街地の明かりを見るたびに風景は違うけれど、いつもふるさとのことを思い出していました。人吉球磨のみんなはどうしているかなと。

私が感じる錦町の良さは、豊かな自然です。特に秋から冬に深い霧がたちこめる風景はこの地域ならではのものですね。私たちは自分がいる環境に慣れてしまって、この風景や自然があることのありがたみを忘れてしまいがちです。外の人に「錦町に来てください」というよりも、まずはここで暮らす私たちがもっと地元の良さを知ることが大切だと思います。



木本神宮（このもとじんぐう）

JAPAN HERITAGE
日本遺産

錦町教育委員会
学芸員
手柴智晴さん

木本神宮は、木上地区の岩城という山城跡にひっそりとたたずんでいます。何もないけれど、空を見上げて、風の音を聴くだけで、まっさらな気持ちになれる場所です。地元の人は親しみを込めて「このもとさん」と呼んでいます。2015年4月には相良氏700年のストーリーを構成する貴重な文化財のひとつとして、日本遺産に認定されました。（文・高崎美智子）

なぜ、木本神宮は日本遺産に認定されたのか？

人吉球磨における日本遺産の選定では、相良氏に関連するものが大前提となっています。錦町では唯一、木本神宮が日本遺産に認定されました。木本神宮は相良家13代の相良長毎（ながつね）によって建立されたもので、本殿は町内に現存する最も古い文化財（建造物）のひとつです。

長毎が市房山神宮に参詣に行く途中、木上地区の岩城付近で水害に遭遇したため出直したところ、2度目も同じ場所で水害のために足止めになりました。そこでこの場所に市房山神宮の神様を勧請し、木本神宮が建立されたといういわれがあります。

木本神宮の外側の建物（拝殿・覆屋）は、本殿を護るために改修を重ねているため、建立当時の面影をそのまま残しているわけではありません。その奥にある本殿が昔から残る重要な建物です。本殿は高さ約3メートル、横幅と奥行きは約1メートルという小さな規模ですが、人吉球磨ならではの建築様式の特徴をとらえています。本殿は格子越しに見ることができます。本殿が建立された年代は、中世建築の特色や『麻郡神社私考（まぐんじんじゃしこう）』という文献資料の記載から、永禄年間（1558～1569年）と考えられます。

日本遺産とは
JAPAN HERITAGE

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの。

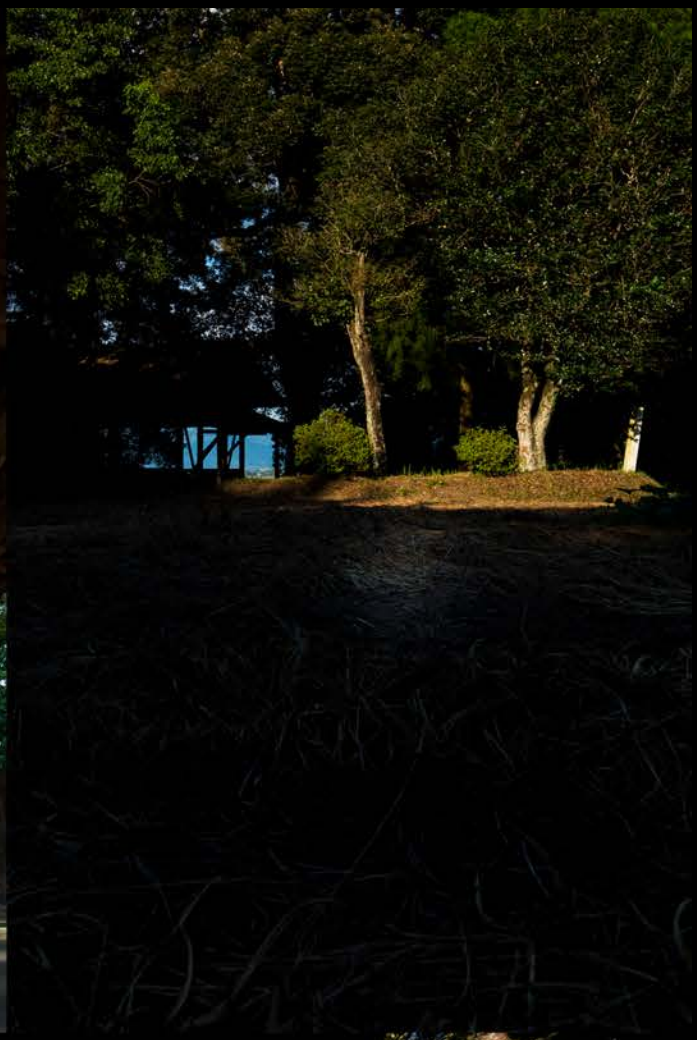
境内にはイチイガシの古い大木があります。一ヵ所だけ見晴らしが良く、球磨盆地を一望できるところがあって、正面に市房山、右側には白髪岳が見えます。木本神宮は地区の人たちによって大切に守られています。

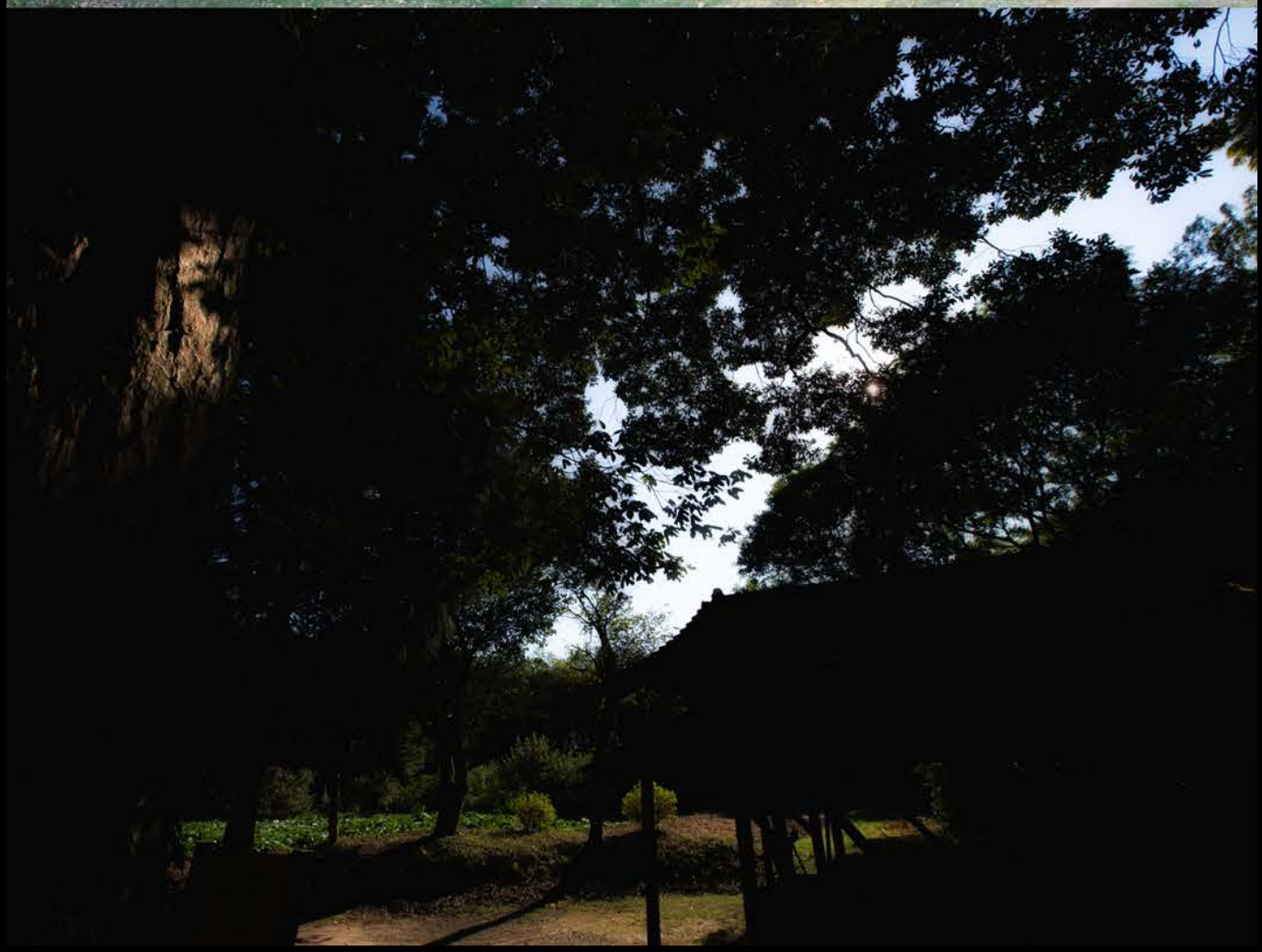
錦町は調査研究のフィールドとしても興味深い

私は福岡出身で、平成23年に錦町に来ました。私の地元には、このように古い寺社仏閣は、あまりありません。私はよそ者の目線から錦町の良さを発掘し、地域に密着しながら文化財を紹介できればと思っています。人吉球磨地方は文化の終着点でもあり、様々な文化が流入している場所です。個人的には装飾古墳に興味があるので、自分の住んでいる錦町に装飾古墳があることも魅力です。調査研究のフィールドとしてすごく面白いと思います。

写真 / 空撮・濵田喜幸

木本神宮と周辺地域





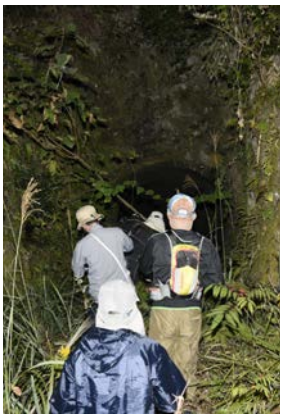
人吉海軍航空隊基地跡

ひとよしかいぐんこうくうたいきちあと

郷土史研究家
福田晃市さん

錦町教育委員会学芸員
手柴智晴さん

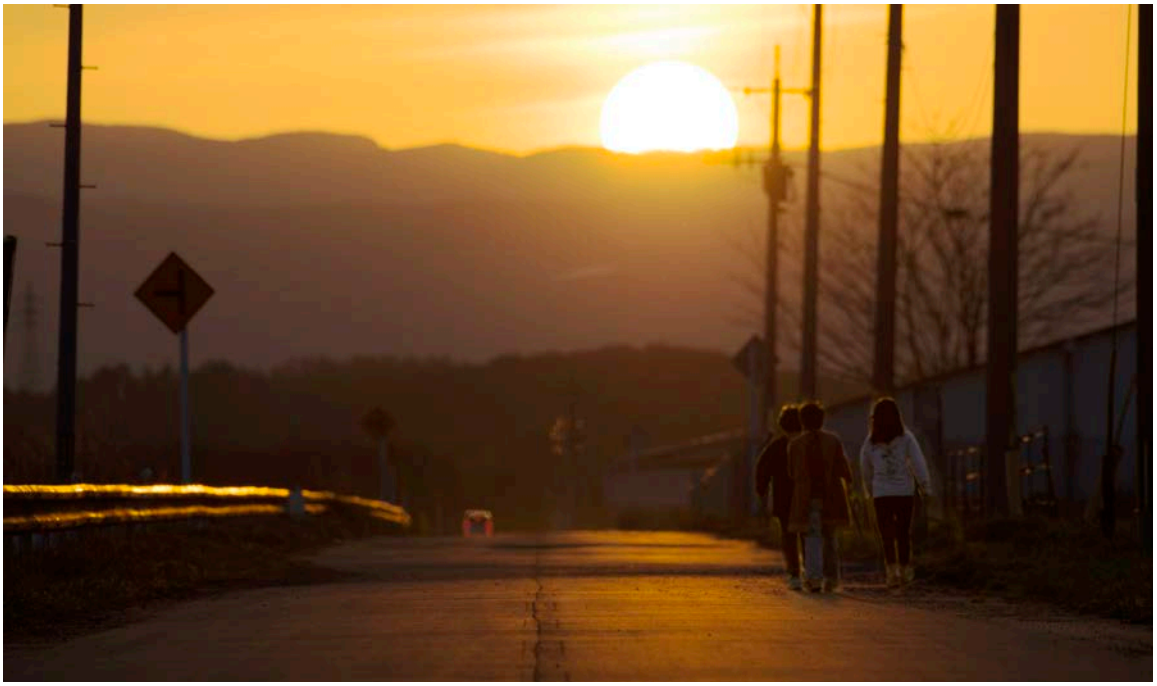
木上地区には戦時中、人吉海軍航空隊の基地がありました。この基地は南方に向かう中継基地として、昭和18年11月に建設を開始。予科練の教育や特攻隊の訓練、最終的には本土決戦に備えた兵站基地となりました。戦後70年を経て、この基地跡に大規模で複雑な地下施設が存在していたことが判明。現在も調査を進めている福田晃市さんと手柴智晴さんにお話をうかがいました。（文・高崎美智子）



人吉球磨は、秘密基地

錦町では航空隊基地跡についての調査が進められています。現在、福田さんが独自に調査された内容をまとめたマンガと動画をご覧いただけます。

春分の日の滑走路跡



写真・栗原礼

郷土史研究家
福田晃市 さんの話

驚きのスピード展開 偶然が重なり秘密基地の存在が明らかに

一昨年、たまたま錦町に防空壕を調べに来た方から、アジア歴史資料センターにある人吉海軍航空隊基地に関する資料のことを教えて頂きました。米軍に基地を引き継いだ当時の資料「軍需品引渡目録」のなかに、地下施設配置図を見つけました。私が興味を持つようになったのはそれがきっかけです。

実際に調査を始めたのは、２０１４年の秋です。調査を進めるうちに人吉海軍航空隊基地跡は、本土決戦の拠点になりうる場所だったことなど、いろいろな事実がわかってきました。当時を知る関係者やご遺族など、多くの方々が調査にご協力してくださっています。情報を集めるなかで、たまたま貴重な資料が見つかったり、この基地の終戦処理の責任者を知る方とつながったり、偶然の連続で驚くことばかり。この１年で急速に当時の状況が明らかになっています。

東京や千葉など遠方からこの基地に来ていた方も多かったようです。ご遺族からは人吉海軍航空隊基地が注目されて嬉しいと喜ばれました。あと２～３年早ければ、本人がまだ生きていたからもっと喜んだだろうにと。当時を知る関係者は本当に少なくなっています。

山のなかにある海軍基地

人吉球磨盆地は周囲が険しい山に囲まれていて、陸上からは攻めにくい地形です。練習航空隊の基地にコンクリートの滑走路があったケースは珍しいそうです。人吉海軍航空隊基地は、最終的には本土決戦の兵站基地に指定されていました。もしも敵が鹿児島に上陸した場合は、大口方面から人吉球磨につながる峠の道を死守するようにという命令も出ていたそうです。

「なぜ、こんなにトンネルを掘るんですか？」。当時、ここで働いていた方が質問したところ、こういう説明を受けたそうです。「敵が攻めて来た場合はこの場所を拠点に戦って、危なくなると地下壕から次の谷に移動する。そのために多くのトンネルを掘っているんだ」と。谷（断崖）沿いに掘った天然の要塞のようなものです。実際に基地跡には軽トラックが通れるような規模の大きな穴もあります。

基地跡は貴重な地域資源

基地跡の調査や見学の際も地元の方がとりまとめをしたり、積極的に動いて協力してくださっています。防空壕を倉庫がわりに使っている人もたいていは好意的に対応してくれます。関わる人の考え方や想いはそれぞれ違いますが、地元を盛り上げたいという気持ちは共通しています。基地跡を地域の観光資源として活用することで、地域を盛り上げることに貢献できればいいですね。

錦町教育委員会学芸員
手柴智晴 さんの話

調査は現在進行形

海軍だけど山のなかに基地がある。なぜだろう？と当時の兵隊さんも思ったようです。おそらく地理的な立地条件の良さが背景にあったのでしょうね。錦町から鹿児島まで約８０ｋｍ、宮崎や熊本も約８０ｋｍで、南九州のほぼ中央に位置します。中継基地や補給基地という役割もありました。人吉出身で終戦工作に奔走された高木惣吉さんが海軍の上層部だったことも関係があったのかもしれません。

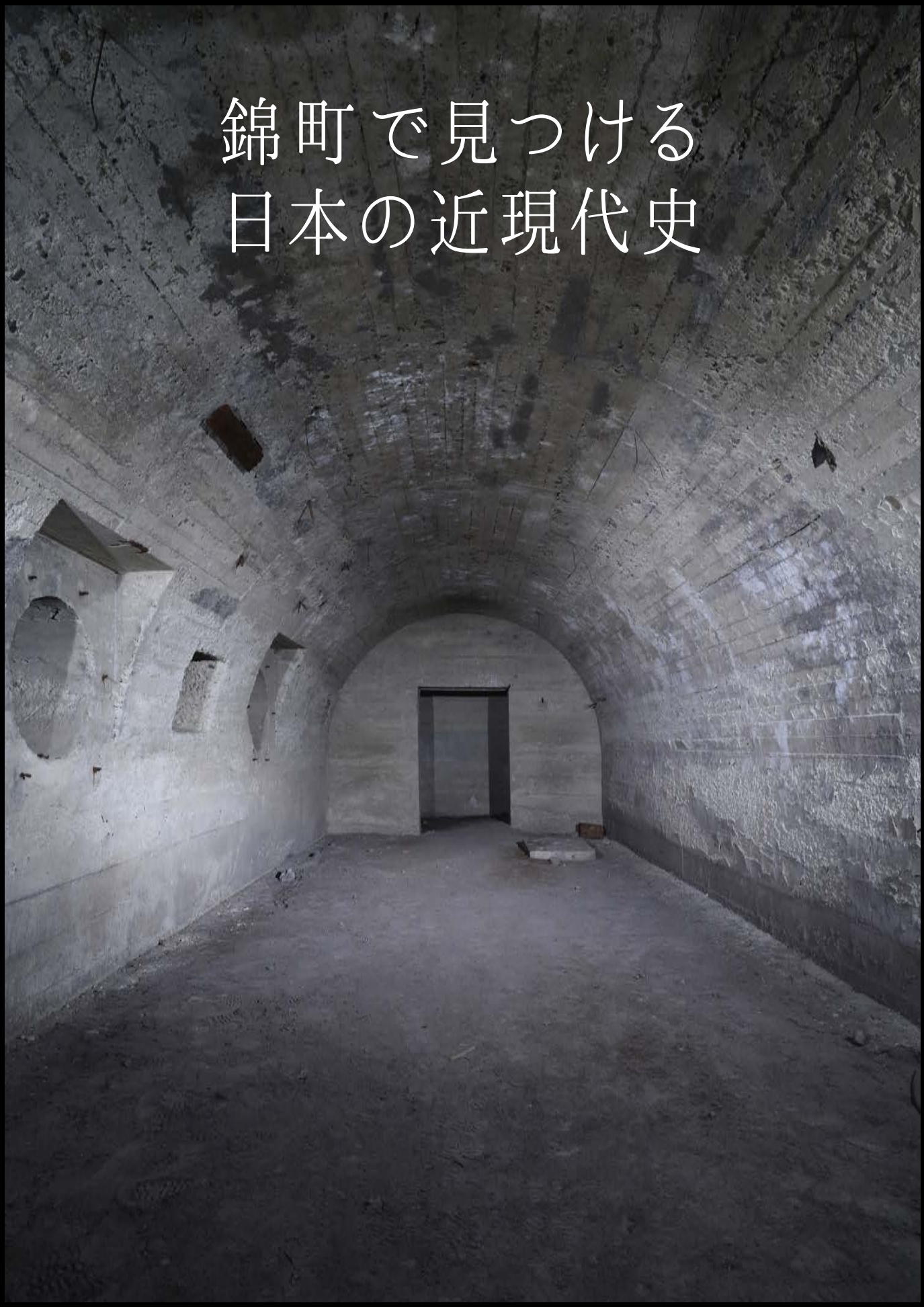
基地全体の規模はかなり大きく、滑走路は相良村までありました。地上施設は現在の農芸学院付近、地下施設は崖沿いに造られていました。戦時中に高原（たかんばる）飛行場があったことは漠然と知られていて、町内のあちこちにも防空壕があるけれど、それが実際にどういう意味や役割を持つものだったのか。今まで全体像がまったくわからなかったんです。

２０１５年２月には、錦町で基地跡の調査や活用に向けたプロジェクトが立ち上がりました。この１年だけでも新たな施設が発見されて、調査は現在進行形です。戦後70年でメディアが注目したり、当時の機密文書が公開されて、いろいろなことが明らかになりつつあります。

進む記憶の高齢化 歴史を未来につなぐ学びの場に

当時を知る関係者の高齢化が進んでいるので、調査は早急に進めなければなりません。役場では地区ごとの座談会などで情報提供のご協力のお願いをしています。戦争のことはなかなか話したがらない方も、残された時間が少ないという危機感からようやく語ってくださるような状況です。今のタイミングを逃すと今後聞き取ることは難しくなります。

まずは地元の子供たちに、自分たちが暮らす町で戦時中に何が起きて、自分のおじいちゃんやおばあちゃんが何をしていたのかを知ってもらい、戦争というものを身近に感じてもらいたいですね。当時、航空基地で活動していた人たちは14～20歳。若くて子供たちに近い世代ですから。今後は日本遺産で歴史教育、人吉海軍航空隊基地跡で平和教育という、ひとつのカリキュラムができればと考えています。人吉球磨広域で連携した取り組みができればいいですね。



錦町で見つける日本の近現代史

元人吉海軍航空隊飛行場跡

基地跡の遺構散策は足場の悪い所も多く普段着では危険な場所もあります。特に長靴、手袋は必ず持参しましょう。見学は可能ですが危険な場所もあり個人の所有地もありますので無断で入らないようにしてください。
現地見学を希望される方は錦町役場・代表 0966-43-1111 までご連絡ください。

基地跡に入るとき持っていきたいモノ

ヘルメット（帽子）・マスク
手袋・長靴・懐中電灯

足場が悪かったりコウモリやゲジゲジに遭遇しますが、安全なところは女性、子供でも見学できます。

左・金山充さん
右・福田晃市さん

二人の活動があってこそ、この基地跡に光が当てられました。道無き道をかき分け残された地図や資料をもとにこの遺構を再発見し、ようやく今に受け継がれることになりました。この場所を作り上げた先人の苦労や英霊の遺志を引き継ぐためにも平和と地域の活性、観光資源、歴史遺産として役立ててほしいとの願いを込めて活動されています。

「日本でもっとも豊かな隠れ里」として日本遺産に認定された人吉球磨地域は、古代神代の時代から中世・近世・近代、そして現代へと多くの文化、財産が受け継がれてきた。その長い歴史においてこの地域でも日本近代化への波が押し寄せ、明治維新や西南の役においても戦場となり、また、先の大戦においてこの地もその役割を担うことになった。古代から現在に繋がるその風景や文化をこの土地で感じとって欲しい。

錦町の西南の高台に位置する基地滑走路跡地周辺は、現在牧場や農場、畑、宅地、一般道路となっている。滑走路の面影を残す静かな田舎道を歩いてみると、その向こうから飛行機が飛び立ってくるかのような気がした。春分の日、秋分の日には東西へまっすぐ伸びる道の上に太陽が昇り沈んでいく。

兵法タイ捨流　15代宗家

上原エリ子（藤原英定）さん

錦町には戦国時代から伝わる「兵法タイ捨流」（ひょうほうたいしゃりゅう）という剣術があります。タイ捨流を生み出した剣豪の丸目蔵人（まるめくらんど）は、相良藩の剣術指南役として活躍し、晩年を錦町一武で過ごしました。この地で約450年伝承されてきた歴史のなかで、初の女性後継者となった15代宗家・上原エリ子さんにタイ捨流に対する想いをうかがいました。（文・高崎美智子）

写真・濵田喜幸

祖父の姿に憧れて タイ捨流の道に

— 上原さんがタイ捨流を始めたきっかけは？

タイ捨流は、私が生まれた時から身近にありました。私の家系でこの兵法が守られ、450年以上受け継がれています。物心がついた頃には、目の前で13代の祖父が稽古をしていたし、父や母も学んでいました。その姿がかっこよくて私もやってみたいと思ったのがきっかけです。13代にお願いして、小学4年から稽古を始めました。

— タイ捨流の「タイ」は、なぜ片仮名なのですか？

「タイ」という片仮名には、「体」「待」「対」など多くの漢字があてはまります。タイ捨流を生み出した丸目蔵人が伝えたかった剣術の極意が、「タイ」という言葉にすべて含まれています。体を使うことを捨てる、待つことを捨てる、対峙することを捨てる。あらゆる雑念を捨てることができれば、タイ捨流の神髄に至る。それがタイ捨流という名前の由来です。

例えば、意識して筋肉を使うと体や脳が無駄な動きをして、すべてにとらわれてしまいます。だから体を知って、体を使うことを捨てる。無意識のなかで自然に動く力がものすごいんです。演武の時も剣は手で振っているわけじゃない。自分の体がひとつにつながって、剣だけが自分の周りをまわっているような感覚です。

タイ捨流は古流の剣術で勝敗がなく、他の流派との闘いもありません。相手を制するものではなく、己を律するものです。13代の祖父には、毎日お箸や鉛筆を持つように、当たり前になるまで稽古をしなさいと教えられました。だから私はふだんからタイ捨流の歩き方で歩きますし、ものを掴む時は剣を持つような動きをします。仕事をする時も、街の人混みのなかでも、車のハンドルを握る時も、生活のすべてが稽古に通じています。

覚悟を決めた襲名式 450年の重みに 声が震えた

— 襲名式の時はどんな気持ちでしたか？

2015年8月1日に青井阿蘇神社で襲名式と演武会を行いました。襲名式で私の意志をみなさんに伝える場面があって、14代までの歴代宗家の名前をすべて読み上げたのですが、途中で声が震えてきました。今、思い出してもその重みが怖いぐらいです。代々築いてきたもの、残してきたもの。タイ捨流の歴史とともに、どれだけ苦労されてきたのだろうかと。ただの450年じゃない、その時に気づかされたんです。

襲名してから多くのメディアにも取り上げられ、戸惑いました。他の流派の先生方は60代以上のベテランなのに、私だけが30代。女性の宗家は初めてで、自分のなかにプレッシャーもあります。今はタイ捨流に対する自分の想いが以前とは違うものになってきています。自分のためだけではなく、みんなのために伝統を守り支えていかなければと。人間的にも成長させて頂いていると思います。

タイ捨流で出会う 人とのつながりが励み

— タイ捨流をやめたいと思ったことや、やっていて良かったと感じることは？

やめたいと思ったことは何度もあります。技を稽古してもできないとか、やっぱり人間には心の浮き沈みがありますから。でも、それを支えてくれたのは師範や周りの人たち。本当に周りの方々のおかげで私も頑張れます。地元で人のつながりが生まれたり、門人さんの成長を見ると、タイ捨流をやっていて本当に良かったと思います。興味を持ってくださる方との交流はとても嬉しいですね。

— ヨーロッパでのタイ捨流セミナーはどうでしたか？

昨年12月にイタリアとオーストリアを訪問しました。各地で熱烈な歓迎を受けて、海外でのタイ捨流に対する関心の強さを実感しました。でも、まずは日本で地元の人にもっと関心を持ってほしいですね。タイ捨流に限らず、日本にある歴史や伝統を知らないのはもったいない。そばにある大切な宝に気づいてほしいです。

— 錦町のどんなところが好きですか？

私は熊本市内で育ち、20歳の時に錦町に戻ってきました。錦町は人と人とのつながりが強くて、いろいろな行事やならわしなどを大事にする人が多い町だと思います。最近は地元に昔から伝わるものを残そうという動きも増えていますね。タイ捨流の稽古は、八代や人吉球磨地域周辺で定期的に開催しています。中学生から20代など若い人が多いです。興味があれば女性も歓迎ですし、若い世代にも受け継いでもらいたいですね。

茶房はち　オーナー
佐藤圭さん

新宮禅寺に隣接する「茶房はち」は、美しい四季の移ろいを眺めながら、ここにしかない心地よい時間を楽しめるカフェです。オーナーの佐藤圭さんは、高校卒業後に上京。7年前まで東京でマネジメントの仕事をしていました。佐藤さんは人吉球磨全体を活性化するために「禅」を軸とする新たな地域ブランドの立ち上げに挑んでいます。

写真・濵田喜幸

人吉球磨ならではの強みは「秘境感」と「祈り」

人吉球磨地方には、古い神社やお寺が数多く存在します。京都や熊本市内にもお寺はたくさんありますが、人吉球磨には独特の秘境感がある。山に囲まれて遠いから、聖地や聖域のような雰囲気を持っているのです。つまり、「祈り」の場所としての競合優位性があるということ。山はスピリッツが集まる場所で、魂やエネルギーが宿る。人吉球磨が他の地域に勝てるのはそこだと思います。

茶房はちもブランドとしての大きなテーマは「祈り」です。僕のライバルは、奈良の中川政七商店のような和柄の雑貨屋さんです。彼らが手を出せないのは、ローカル性と宗教性。僕たちが勝てるのはその部分です。その2つをデザインでうまくアレンジして活用することが地域のブランド戦略で人吉球磨が生き残るひとつの道だと考えます。

例えば、福岡に日本各地のかわいい民芸品や雑貨を扱うセレクトショップがあるのですが、人吉の地図上の位置や、きじ馬の説明が間違っていて、そのことで人吉のブランドとしての価値が削られていると感じます。同じ熊本県内でも地域によってさまざまな歴史や文化があるのに、くまモンが有名になればなるほど、人吉球磨の魅力が伝わらないジレンマもあります。人吉藩相良家は700年以上の歴史があるわけですから、細かい部分にもこだわりを持って、きちんと伝えたいですね。

僕は日本でトップクラスのマーケティングの先生に出会い、直接学ばせて頂いたことが人生の大きな糧となっています。その先生は仕事で年に一度、人吉を訪れるなかで、人吉はもったいないと感じていたそうです。「先生ならば、人吉で地域を活性化するには何をしますか？」。僕の質問に対して先生は、「歴史をやればいい」とおっしゃいました。歴史ならば誰にもマネされない。ここにしかない歴史をどう紡ぎだすかだと。今回、日本遺産に認定された18地域は太宰府など有名なところが多いですね。人吉球磨はこれからなので、逆にチャンスの伸びしろがたくさんあります。

僕が好きな錦町 これから創る ふるさとの物語

錦町といえばやっぱり日本一の剣豪、丸目蔵人です。錦町では「丸目蔵人顕彰七段大会」という、七段の人だけが参加するハイレベルな全国大会を開催していました。でも、コスト面や民泊の手配など、町の負担が大きいのでやめてしまいました。観光を考えるならば、この全国大会はぜひ復活させたいですね。外国人は剣道が好きですし、剣道をする人には憧れの大会でしたから。錦町だけで抱え込むのではなく、人吉球磨全体で七段大会を開催できればいいと思います。復活したら、まさに丸目蔵人の歴史に基づいたここだけのストーリーができる。人吉球磨の宝として取り組む価値はあると思います。

僕は、球磨商業高校の近くの橋から眺める夕暮れの景色が好きです。球磨川の鉄橋の向こうに太陽が沈んでいく風景は本当に美しい。そこから見る夕日は、人吉球磨でも屈指の素晴らしい夕日だと思います。

東京から地元に帰ってきて幸せだと思うのは、親子3代で暮らせること。自分でなりわいをしながら暮らしていける場所がここにあるのも、いろいろな偶然が重なったおかげです。小・中・高校時代を振り返ると、いい友達や先生との出会いにも恵まれました。

基本コンセプトは「禅」 茶房はちを 人吉球磨ブランドの 発信拠点に

新宮禅寺の圓（つぶら）さんは、僕の姉の同級生で幼なじみです。再会できたご縁から、新宮禅寺での座禅会を復活しました。21世紀は心の時代です。知り合いの精神科医が話していましたが、産業革命の頃に心の病にかかる人が多かったそうで、現代もすごく多い。だから、心と体のバランスを整えるためにも、座禅を通して心の重荷を解き放つひとときがあればと思ったのがきっかけでした。参加者からはとても好評です。

茶房はちとしては「禅」をコンセプトに、地元の素材を使った独自の商品開発にもこだわっていきたいと考えています。第1弾は「お茶」です。人吉球磨における茶の歴史は古く、日本最古の茶種かもしれない「山茶」という品種があり、それをベースに地元の若手生産者とブランドの再構築に挑戦しています。新たに制作した冊子「人吉禅スタイル」の企画やプロモーションも手掛けています。やるからには「東京進出」が目標です。茶房はちを拠点に地元のオリジナルブランドを発信し、地元の方にも「こうしたら人吉球磨は盛り上がっていけるんだ」という方向性を可視化したいですね。（文・高崎美智子）

茶房
café Ha-chi

茶房はち

熊本県球磨郡錦町西 2311-8
TEL 0966-38-0358
WEB http://cafe-hachi.jp/
OPEN 11 時
CLOSE お寺の鐘が聞こえるまで
定休日 木曜日

球磨商業高校調査研究班

班長　3年総合ビジネス科　山下莉央

今回、「錦を飾ろう！プロジェクト」の話をいただき、電子書籍の作成に携われたことを感謝申し上げます。またこのプロジェクトを進めていくうちに、人吉球磨に住んでいる私たちでさえ知らなかった錦町の魅力を再発見することができました。今後とも情報を発信していくとともに、球磨商業高校の応援をよろしくお願い致します。

女子高生×お寺

新宮禅寺チーム

新宮禅寺を訪れるまでは、お寺はお年寄りだけが集まり、少し寂しげで近寄りにくいイメージでした。しかし、実際に訪れてみるとお寺は老若男女関係なく、とても気持ちが清々しくなり、心が育まれる交流の場所だと感じました。「今はお年寄りの方がたくさん来られる。お寺も変わらなければならない」という住職の方の言葉が印象に残りました。

© 濵田喜幸

今はインターネットを使って情報のやりとりや、友人との交流を深めることができます。若者はあまりお寺を訪れることがないと思います。新宮寺で多くの観音様を鑑賞し、住職の方のお話を聞いたあとに、友達と新宮寺の魅力を発見するという体験は、あまり神社やお寺に行ったことがない私たちにとって、とても楽しく新鮮でした。こういう魅力は、人吉球磨独自の魅力にも繋がっていると思います。新宮寺六観音は季節によって見え方が変わるそうなので、時間を見つけて家族や友達と一緒に訪れてみたいと思います。

今後もこのような活動を後輩に引き継いでいくことで、より多くの人々を人吉球磨に呼び込むことができれば、地域にも活気が宿ると私たちは信じています。

写真・球磨商業高校調査研究班

何もないけど何かある

木本神宮チーム

木本神宮に行く途中の細道は風情が感じられ、人吉球磨らしいと思いました。防空壕と岩城があることをまったく知りませんでした。木本神宮の境内には、イチイガシの大木が木本神宮を包み込むようにそびえていました。初めて自分の眼で見て「歴史」を感じました。木本神宮はとても古い建物という印象です。私達がきれいに掃除するだけでも歴史を後世に伝えられると思いました。

一番に思ったのは、なぜ木本神宮が日本遺産の文化財の一つに認定されたか？ということ。「日本遺産」と聞いて思い浮かぶのは、由緒ある神社や寺のような、いかにも「日本遺産」といった威厳のある建物です。そんなイメージを覆すような木本神社は、むしろ「古い」を通り越して「素晴らしい」と感じています。インターネットで調べるのもいいけど、現地に出向いて実際に触れて知ることが大切だと感じました。

日本遺産認定文化財の紹介
球磨商業高校
調査研究班 生徒 作成

パンフレット（PDF）　WEBサイト

ハラハラ・ドキドキ！入ってみたら別世界

人吉海軍航空隊基地跡チーム

人吉球磨に海軍航空隊基地跡があることを初めて知りました。基地跡は相良村にもあり身近に感じました。当時、人吉球磨で過ごした方のなかにも戦場で命を絶った方がいると知り、胸が痛みました。私達と同じ10代でも入隊していたことが信じられませんでした。今の私達の生活がどれだけ幸せなのかを強く感じされられました。

基地跡までは舗装されていない道が続き、不安でした。基地跡に着くと入り口の大きさに圧倒され、穴の中は真っ暗でした。ヘルメットをかぶり、懐中電灯を持って入りましたが、最初に驚いたのは、穴は手作業で作られたということでした。基地の中はとても複雑で、ここを掘る作業は並大抵ではないと感じました。さらに奥に入ると、大量のコウモリが飛んできたり、巨大なゲジゲジが出たり、驚くことばかり。ここで一日暮らすことが想像できないほど、暗くて怖かったと思います。

私達が見たのはほんの一部であり、錦町には数多くの基地跡が存在するそうです。70年ものあいだ、そのままの状況で保存されており、人吉球磨の歴史を肌で感じることができました。戦争がどれだけ多くの命を犠牲にしたのか考えるきっかけとなりました。

© 栗原礼

© 栗原礼

錦の「ご縁」を未来に紡ぐ

今回のHITO-KUMAプロジェクトのなかで、錦町の日本遺産である木本神宮と新宮禅寺に地元の球磨商業高校の生徒さんとお参りに行きました。皆さんそれぞれ、自分の目で見て感じたことがあると思います。

一緒にプロジェクトを進めさせて頂くなかで、若い世代にとってお寺や神社は身近なものではないこと、そもそもお寺や神社とは?など、私たちが当たり前と思っていることを知らない若い世代の方もいるということに私は衝撃を受け、いろいろ考えさせられるきっかけのひとつになりました。

木本神宮に行った生徒さん達のレポートには、「日本遺産」ということで期待をしていたら、イメージしていたものと違ったという感想もありました。そもそも木本神宮は「日本遺産」という前に、周辺の地元の方々にとって昔から大切に守られてきた大切な氏神さまです。

なぜ、そこに神社があるのか?
なぜ大事にしてきたのか?

昔から伝えられてきたものを受け継いでいくつながりが今はだんだん希薄になっています。若い世代の人たちが知らない、わからないということは、この先、その子供たちはもっとわからなくなってしまう・・・、それではいけないと危機感を感じます。そこに生まれたということは、氏神さまとご縁があったということ。その大切さをあらためて心にとめて欲しいです。

今回、「ご縁」というのが私の中のキーワードのひとつとなっています。まさに何らかの「ご縁」があったからこそ、このプロジェクトも動き、たくさんのことを知り、考える機会となりました。今を生きている私たちには昔と未来を繋ぐ役割がある。そう考えると、もっと自分たちの町のことを知り、次に伝えていく努力の必要性を感じます。自分たちの町を宝とするために、未来にどう伝えていくか。これからの生き方にも影響しそうです。

氏神さまを敬うことは ふるさとに感謝すること

人生の節目で子供や家族のことを祈るお宮参りや七五三、初詣、結婚式などの場合、人吉球磨の多くの方は青井阿蘇神社で祈願するイメージがあるかもしれません。でも、地元にある氏神さまの神社や、新宮禅寺などのお寺にお願いして祈願して頂くこともできるのです。ちなみにお寺での結婚式は、仏前式と呼ばれています。仏前式ならではの式次第があり、流れのひとつひとつに意味があります。

国宝青井阿蘇神社やその他で結婚式を挙げられる場合でも、氏神さまを思う心を大切にして、地元の氏神さまに結婚の報告のお参りに行きましょう。

HITO-KUMAプロジェクト
代表　濵田佳与子

"お寺"とは

新宮禅寺の第13代住職　圓光裕さん

お寺とは、亡くなった方の魂がまつられているところです。お寺を訪れ、お墓参りをするのはご先祖様に会いに行く、その方にお会いしたいそういう気持ちのあらわれではないでしょうか。

"神社"とは

青井阿蘇神社宮司　福川義文さん

神社とは、祈りを捧げるところです。祈りと感謝は繋がっています。大事なことに気づいたり、考えを深めるようなところではないでしょうか。

新宮禅寺での七五三

新宮禅寺での仏前結婚式

写真・濵田喜幸

編集後記

人吉球磨写真倶楽部

四季折々でいろんな顔が見える町・・・
先人たちの想いがいろんな場所で息づいている、
このまま壊さず次世代への受け渡しが出来ると素晴らしいと感じました。

by　魚住写真館　魚住芳正

遺跡観光取材は驚きや発見が数知れずありました。同行した高校生から「生まれ育った人吉球磨に住みたい」、そういう言葉が少なくなかったことが驚きでした。
活かしてしてこその人材・資源、使わなかったらただのモノ。
人吉球磨に良い物はたくさんあると実感しました。

by　くりはら写真場　栗原礼

目には見えない一本の線。
時にはその糸が切れそうな時もあったかと思います。
先祖から受け継いだこの財産を、次の世代に受け継がなければいけませんね。

by　スラップスティックフォト　濵田喜幸

錦町のたくさんの魅力を「ヒト」というフィルター越しにご紹介させていただきました。
本誌を通じて錦町、人吉球磨の素晴らしさを感じていただければ嬉しいです。
人吉球磨へぜひ遊びに来てくださいね。

by　オモシカ（レイアウト制作）　吉村健

18歳でふるさとを離れ、東京で過ごす時間が長くなるほど、人吉球磨は私にとってかけがえのない心の拠り所になっています。帰省して地元の方々を訪ねると、「なあんもなかですけど」といいながらも、畑で大切に育てたお茶と手作りの漬物や「だご」が出てきたり、近くの山の神様にそっと手を合わせていたり・・・。私は人吉球磨にある奥ゆかしさや、四季によりそう暮らしに感動します。今回のプロジェクトに参加させて頂いたおかげで、錦町の新たな魅力を知り、人吉球磨に帰る楽しみが増えました。
本当にありがとうございました。

by　フリーランスインタビュアー＆エディター（編集協力）　高崎美智子

いつもと変わらない、当たり前と思っているこの錦町や人吉球磨全体の「日常」が、
どれだけ宝物かということを、このプロジェクトを通して再認識しました。
自分たちの住む町に誇りをもち、次の世代に伝えていこうと思います。

by　感動演出家・フリーウェディングプランナー　濵田佳与子

景色と空気をゆっくり楽しむ方には
ローカル線「くま川鉄道」と徒歩の旅を

錦町

ありくオススメ ローカル鉄道と徒歩の旅

3ルートの組み合わせであなただけの錦町を発見しよう

ルート1 午前スタートなら！新宮禅寺と茶房はち

人吉から電車で約10分 → 肥後西村駅

約20分 →

新宮禅寺

日々の喧騒を忘れ、心落ち着く空間で四季を感じてみては

約1分 →

地元の食材や禅をモチーフにしたメニューが楽しめるカフェ

茶房はち

ルート2 道の駅と日本遺産・木本神宮を巡る

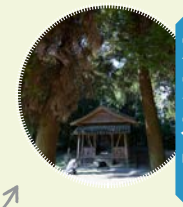
一武駅 →

約20分 →

道の駅 錦

物産館や公園が隣接

約40分 →



木本神宮

物産館でお弁当を買って錦町の風景を楽しみながらのランチもオススメ

人吉駅 ➡ 錦町

ローカル線
くま川鉄道

料金・時刻表

ルート3 季節限定！ツクシイバラを楽しむ

木上駅 → 約7分 →

ツクシイバラ群生地

毎年の満開目安は
5月下旬～6月上旬

約30分 →

木本神宮

タクシー観光コース

現地までの移動はタクシーにおまかせ
ゆっくり回る時間がない方にもおすすめのコース

料金目安：1時間 6,000円　2時間 9,000円　3時間 13,000円
時間目安：2時間～3時間　※待ち時間含む　事前に各タクシー会社へお問い合わせを

クリックして実際のスポット位置やコースをマップ上で確認

A 人吉インター → 約15分 → B 新宮禅寺 → 約20分 → C 木本神宮 → 約10分 → D 人吉海軍航空隊基地跡 → 約15分 → A 人吉インター

観光モデルコース

人吉球磨へのアクセス

飛行機で人吉球磨へ

鹿児島空港 ➡ 人吉IC

高速バス「きりしま号」で約60分：1,390円

www.kyusanko.co.jp

電車で人吉球磨へ

熊本駅 ➡ 人吉駅

JR「鹿児島本線快速」で約90分

www.jrkyushu.co.jp

タクシーで錦町へ

人吉IC ➡ 人吉駅　約8分：770円

人吉IC ➡ 錦町役場　約20分：2,370円

取材元に関するお問い合わせ先

黄檗宗　新宮禅寺

錦町西久保宇野 1670
電話 0966-38-0251

日本遺産　木本神宮

錦町木上岩城
電話　0966-38-4450
（錦町教育委員会）
http://hitoyoshi-kuma-heritage.jp/heritage/heritage18.html

人吉海軍航空隊基地跡

錦町海軍基地跡エリア
電話　0966-38-4419
（錦町企画観光課）

全般に関するお問い合わせ

錦町役場企画観光課

錦町大字一武 1587
（代表）0966-38-1111
・
錦町観光協会ＨＰ

http://nishiki-kankou-navi.com/

錦町合併60周年・町制施行50周年記念町民発案事業

発行監修　HITO-KUMAプロジェクト
写真提供　人吉球磨写真倶楽部　　レイアウト　オモシカ
制作協力　錦町　新宮禅寺　人吉海軍航空隊を顕彰する有志の会
兵法タイ捨流龍泉館　茶房はち　球磨商業高等学校調査研究班